

現代インドネシア研究 (3.4年次後期)

[科目の趣旨]

地域研究専門科目の一つであり、学際的な総合研究としての地域研究の手法によって、現代インドネシアの政治・経済・社会・文化の解明を目指す講義である。とくに、政治的経済的変動と社会文化的変動がいかに関わり合うかに焦点を絞って、議論を展開する。「開発と政治」、「開発と文化」、「開発と国際関係」などを主たる切り口とした講義を行い、学生が多面的でリアルなインドネシア像を形成するのを助けることを目指している。

[授業の内容]

インドネシアは現在、他の東南アジア諸国の多くと同様、「民主化と自由化」の時代にある。1998年5月に第二代大統領スハルトが退陣するまで実に32年間、インドネシアは「権威主義・開発主義」の時代を過してきた。初代大統領スカルノの後半期を含めれば、40年近く民主主義的とはいえない政治体制が続いていたわけである。2004年に総選挙、大統領直接選挙を大過なく終え、第6代ユドヨノ大統領が誕生し、ナショナル・レベルでは民主主義は根付いたかにみえるが、多くの研究は、地方にまで目を転ずれば、それほど楽観的な判断は下せないと指摘している。

今後、インドネシアがどのように発展していくかを正確に予見することは何人にも不可能であるが、大きな間違いをしないためには、歴史を遡ってみて、現在のインドネシアがいかに形成されてきたのかについて出来る限り正確な経過を知るとともに、政治・経済だけではなく、社会・文化的背景に周到的な目配りを忘れないことが必要であろう。

こういった観点から本講義は、過去と現在がどう切り結ぶのかを指摘しながら、2000年前に始まったインド化、600年前に始まったイスラム化、400年前に始まった西洋化（植民地化）について、現在のインドネシア理解に不可欠な諸点を指摘しながら、インドネシアの今を明らかにしていきたい。

[授業方法]

パワーポイントで講義を進める。出来る限り、写真・図、表、音声、画像を多くして、情報量は多いが、わかりやすい内容にしたい。

教科書は使わず、パワーポイントでの講義内容を事前にプリントアウトして配布するスタイルで講義を進める。配布資料は通し番号をつけるので、どの部分について解説しているのか簡単にわかるようにする。配布資料を予習、復習に有効に利用してほしい。

[授業計画]

1. 導入（シラバス解説）。
2. 過去と現在のかかわり。
3. インド化。
4. イスラム化。
5. 植民地化。
6. 東南アジア現代史の時代区分とインドネシア。
7. 民族独立運動～国民国家インドネシアの形成(1)。
8. 民族独立運動～国民国家インドネシアの形成(2)。
9. 植民地解放戦争・独立・議会制民主主義の時代
10. スカルノの権威主義。
11. スハルトの権威主義・開発主義(1)
12. スハルトの権威主義・開発主義(2)
13. インドネシアの現状と展望。

[教科書・指定図書] *教科書は使わない。

指定図書・推薦図書：

問学谷榮『現代インドネシアの開発と政治・社会変動』(勁草書房、2000年)。

問学谷榮『現代インドネシア研究～ナショナリズムと文化』(勁草書房、1983年)。